

R5防災復興支援研究

「岩手県内における認定看護師・専門看護師を活用した県北・沿岸地域のジェネラリスト看護師への看護教育支援の効果とニーズ」

研究代表者：看護学部 細川 舞

共同研究者：看護学部 遠藤 良仁、及川 紳代、総合政策学部 新田 義修

＜要旨＞

本研究では、いわて県民計画（2019-2028）第2期アクションプラン—復興推進プラン—【暮らしの再建】の取組項目No.5『雇用の確保を図るとともに、就業を支援します』『④社会環境の変化に対応した職業能力の開発の支援』をもとに、看護職者に対して、看護教育を支援し、その効果とニーズを明らかにすることを目的とした。そして、教育支援の実施に際しては、看護大学教員、専門看護師（Certified Nurse Specialist：CNS）や認定看護師（Certified Nurse：CN）をリソースナースとして活用し、現地研修やWeb研修の利点を活かしながら合計5回の研修会を実施した。研修会に参加した看護職者の中から研究参加に同意が得られた者を対象に、研修会の効果やニーズについてインタビュー調査を実施し、がん看護および看護実践に関する困難感を抱えていること、がん看護を含めた生涯学習全般に関する学習ニーズを明らかにした。今後は、地方においても効果的なWebを活用した生涯学習支援と共に、現地開催研修会で近隣施設の看護職等との交流を促進し、情報交換等が行える場となるようなシステムを構築することが課題となる。

1 研究の概要（背景・目的等）

震災復興の最終目標は「まちのにぎわい」を取り戻すことであり、インフラや住宅等（ハード）の復旧が進みつつある中、「まちのにぎわい」を取り戻すためには、「人々の活動（ソフト）」の復興が必要であるといわれている（復興庁, n. d.）。そして、人々が活動するためには、健康な心と体を有していることが重要である。令和2年（2020）調査では、日本では1,500万人の高血圧患者、400万人の脂質異常症患者、370万人の2型糖尿病患者、360万人のがん患者がいる。これらの人々が病を抱えながらも被災地の「まちのにぎわい」を取り戻すための活動を行うためには、「まちの人々」の健康を守り増進させることのできる、質の高い保健医療体制の整備が必須である。そのための医療職者のスキルアップは非常に重要である。

日本看護協会では、国民への質の高い医療の提供を目的に、資格認定制度を運営している（日本看護協会, 2023）。その資格は「専門看護師（Certified Nurse Specialist：CNS）」、「認定看護師（Certified Nurse：CN）」、「認定看護管理者（Certified Nurse Administrator：CNA）」の3つあり、それぞれ認定分野の特徴を活かして施設や地域で活躍している。岩手県内で就業している看護職は、2022年末現在で、保健師・助産師・看護師・准看護師を合わせて18,087名である（厚生労働省, 2023）。その中で、2023年末現在、専門看護師：24名、認定看護師：234名、認定看護管理者：68名が登録されている（日本看護協会, 2023a, 2023b, 2023c）。CNS, CNは、あらゆる場で看護を必要とする対象者やその家族、および集団等に対して、水準の高い看護ケアを提供するために、臨床現場で対象者や集団に対してのケアを行っている。加えて、それぞれの専門分野における看護師の教育的役割も担っている。CNS, CNの所属する施設では、それぞれの専門分野に

ついて看護部門と協働し、看護師の卒後教育などに尽力している。しかしCNS, CNの80-90%は、所属が病院であり、次いで多いのが訪問看護ステーションで3-5%である（日本看護協会, 2022a, 2022b, 2022c）。中小規模の病院ではCNS, CNの所属していない施設も多く、外部から講師を依頼したり、外部の研修会等に依存したりすることも多い。岩手県も例外ではなく、CNS, CNの所属する施設は限られている。とくにCNSの所属する施設は、盛岡医療圏に集中している。盛岡医療圏以外の中小規模の病院や訪問看護ステーションの看護師は、看護を実施するうえで困難を感じたときやスキルアップをしたいと考えたとき、CNSやCNといったリソースにアクセスすることも困難である場合が多い。特に、県北・沿岸地域では、盛岡医療圏へのアクセスが不便な地域もある。地域住民が安心して暮らせる社会において医療の質は重要であり、そのなかでも、患者と関わる機会の多い看護師のスキルは医療の質に大きな影響を与える。

さらに、いわて県民計画（2019-2028）第2期アクションプラン—復興推進プラン—（岩手県, 2023）において、【暮らしの再建】では、『雇用の確保を図るとともに、就業を支援します』を、取組項目No.5に挙げている。そのなかでも、「④社会環境の変化に対応した職業能力の開発の支援」においては、働く人のスキルアップや、リカレント教育、リスキリング教育等の充実を図り、企業における人への投資や労働者の主体的な能力開発を促進することを、主な取り組み内容に計画している。教育機関・産業支援機関等に期待される役割として、離職者等への職業訓練の実施や、若年技能者への技術向上の支援、学生・生徒への県内就職・定着支援などがあげられており、有職者や生徒・学生への教育支援が地域復興に重要であることが示されている。

岩手県の防災復興計画を基に、看護師の人材育成を考える

と、県北・沿岸地域のジェネラリスト看護師がアクセスしやすい環境を整え教育支援をすることで、県北・沿岸地域の看護の質向上につなげ、地域の看護の質を担保できる人材育成および、看護師が学び続けられるシステムの構築に取り組んでいくことが防災復興支援に重要であると考えられる。

本研究では、CNS、CNを活用したジェネラリスト看護師対象の教育支援(研修会)(webまたは現地開催)を実施し、その効果やニーズを明らかにし、教育機会の提供とともに今後の教育システム構築の課題やニーズの示唆を得ることを目的とした。

2 研究の内容(方法・経過等)

- 1) 研究デザイン
質的記述的研究
- 2) 対象者
CNS、CNが講師となり実施した教育支援(研修会)(webまたは現地開催)に参加した県北・沿岸地域のジェネラリスト看護師
- 3) 対象者数
20名程度
- 4) 調査方法
 - ・ 半構成的面接調査
CNS、CNが講師となり2023年10月14日～2024年3月23日の期間に実施した教育支援(研修会)に参加したジェネラリスト看護師の中から同意の得られた看護師を対象に、半構成的面接を実施した。
 - ・ 面接者について
面接の実施者は、教育支援の講師を担当していない研究分担者が面接員となり実施した。
- 5) データ収集内容
 - (1) 対象者の属性
看護職の種類、年代、所属の種類・規模、etc.
 - (2) 研修会についての評価・ニーズ
開催方法について、アクセスのしやすさ、etc.
- 6) 分析方法
 - (1) 対象者の属性
記述統計により対象者の背景を分析した。
 - (2) 研修会の評価とニーズ
質的記述的に分析した。

3 研究の成果

- 1) 研修会開催概要
本研究では、合計5回の研修会を実施した(表1)。各回10～30名程度の申し込みがあり、研修後のアンケートにより満足度については、高評価が得られた。Web開催では「闘病中から亡くなった後までご家族の気持ちの変化など、貴重なお話を聞かせていただいた」(第1回)、「ACPについて理解を深められました。誰もが同じように理解する事の難しさを感じていました」(第2

回)などの意見が寄せられた。現地開催では「現在疑問に感じている内容とあっていた。実演もありわかりやすかった」(第1回)、「復習にも、新たな学びにもなったと感じた」(第2回)などの意見が寄せられた。

表1 2023年度研修会概要とテーマ

	テーマ
【第1回】10/14 宮古キャンパス	がん患者のスキンケア基礎セミナー (図1)
【第2回】11/18 大更コミュニティセンター	がん患者のスキンケア基礎セミナー (図2)
【第3回】11/25 Web	がん患者家族の語り (図3)
【第4回】1/27 Web	患者・家族からみたACP(アドバンス・ケア・プランニング)の意味 ～看護外来の実践から～
【第5回】3/23 八幡平市立病院	地域緩和ケアの普及に向けて ～八幡平市立病院、緩和ケアチームの取り組みから～



図1 研修会風景(宮古キャンパス)



図2 研修会風景(大更コミュニティセンター)

- 2) 研修会の効果とニーズ
インタビュー対象者は、看護職者3名で、訪問看護ステーション2名、看護小規模多機能施設1名であった。インタビュー時間は、37～51分であった。分析結果を表2、表3に示した。がん看護を含めた看護実践全般に関する困難感は、6つの困難感が抽出された(表2)。がん看護を含めた生涯学習全般に関する学習ニーズは、

内容面に関する4つと、学習方法に関する4つの合計8つの学習ニーズが抽出された(表3)。



図3 研修会風景 (web 研修)

表2 がん看護を含めた看護実践に関する困難感

がん看護に関する困難感
・ がん看護に関する研修会の少なさ
実践全般的な困難感
・ 看護手順の刷新の遅さ
・ 専門職から学べる機会の少なさ
・ 常勤職員の少なさと研修参加にあたり他のスタッフへの遠慮
・ 学ぶことへの消極性
・ スタッフや自分の精神的な悩みは、相談したくても相談できない現状

表3 がん看護を含めた生涯学習全般に関する学習ニーズ

内容面に関する学習ニーズ
・ 最新のがん治療
・ 基礎的知識
・ 実践事例
・ 他専門職(リハビリ・栄養士)の考え方
学習方法に関する学習ニーズ
・ 研修時間は2時間から半日程度の開催
・ 近隣施設の参加者間の意見交換
・ 介護職等、多職種と共に学ぶ
・ 集合と遠隔のハイブリッドを希望

また、研修会をきっかけに参加者が講師と連携することができ、講師が参加者の施設へ出向いて講義をするなど、リソースを活用するためのネットワーク構築につながった。

3) 成果のまとめ

本研究で、東日本大震災津波で被災した沿岸地域を宮古市に選定し、比較対象とする事例として八幡平市を取り上げた。ジェネラリスト看護師への看護教育の支援に関する効果は、受講生の参集範囲としてみると、研修を開催した岩手県立大学宮古キャンパス周辺の病院や施設、または、訪問看護ステーションで勤務する看護師が多く参加していた。この他、奥州市や八幡平市など宮古市からかなり離れた場所からの参加者も確認できた。

このことから、沿岸被災地支援への対応としてではなく、広く全県への情報を提供することが求められている可能性が示唆された。今回比較対象とした八幡平市での研修及びWeb開催での研修は、宮古市よりも参加しやすい環境であったが、この点は、予想通りであった。今後は、被災地支援としての看護教育支援の手法について岩手県立大学宮古キャンパスを主な拠点としつつ、Web開催も視野に入れた研修の開催方法も検討したい。

4 今後の具体的な展開

県土の広い岩手では、自宅で容易に参加しやすく、また隙間時間での学習ができることでWeb研修会のニーズは高い。一方で、現地参加では実技演習を取り入れることができ、講師とのネットワークが構築しやすいなどの利点がある。今後はWeb研修と現地集合研修の双方のメリット・デメリットを考慮しテーマに応じて開催方法を検討し、教育支援事業を継続していきたい。

また、現在は第4回、第5回研修会参加者からのインタビューデータを加えた合計7名の分析を実施している。研修会の効果や困難感、学習ニーズを詳細に明確にして、教育支援システムの構築を行い、教育支援を継続することが今後の課題である。

5 その他(参考文献・謝辞等)

本研究に協力をいただいた対象者の皆様、研修会講義を担当いただいた、患者様ご家族、専門看護師、認定看護師の皆様に深く御礼申し上げます。

引用・参考文献

- ・ 復興庁. (n. d.). 復興推進会議.
https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat7/sub-cat7-1/200717_02_honbunan.pdf
(2023/7/25 access)
- ・ 復興庁. (n. d.). 復興に向けた取り組み「新しい東北」.
<https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-11/creationnewtohoku.html> 日本看護協会. (2023). 資格認定制度.
<https://www.nurse.or.jp/nursing/qualification/>
(2023/07/11 access)
- ・ 岩手県. (2023). 岩手県民計画(2019-2028)第2期アクションプラン—復興推進プラン—. https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page/001/029/628/dai2kifukkou_1.pdf
(2023/7/14 access)
- ・ 厚生労働省. (2023). 令和4年衛生行政報告例(就業医療関係者)の概況.
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/22/dl/gaikyo.pdf> (2024/05/31 access)
- ・ 日本看護協会. (2023a). データでみる専門看護師.
<https://www.nurse.or.jp/nursing/qualification/vi>

- ・ [sion/cns/index.html](https://www.nurse.or.jp/nursing/qualification/vision/cns/index.html) (2024/5/31 access)
- ・ 日本看護協会. (2023a). データでみる認定看護師.
<https://www.nurse.or.jp/nursing/qualification/vision/cn/index.html> (2024/5/31 access)
- ・ 日本看護協会. (2023a). データでみる認定看護管理者.
<https://www.nurse.or.jp/nursing/qualification/vision/cna.html> (2024.5.31 access)
- ・ 日本生活習慣病予防協会. (2023). 2023年1月5日ニュース「最新の患者調査(厚生労働省)より, 国民の健康状態について分析」.
<https://seikatsusyukanbyo.com/calendar/2023/010689.php> (2023/7/25 access)
- ・ 首相官邸. (n. d.). 復興の今, そしてこれから ~復興まちづくり~.
<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/311fukkou/machizukuri.html> (2023/07/25 access)